

# 7月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
すいか類		14,661	100	14,161	170	96	172	2,800	19	千葉、鳥取、長野、山形、新潟産が中心の入荷となる。千葉、鳥取は生育順調で、7月中旬にはほぼ終了の見込み。下旬には、山形、長野産中心の出回り。天候よく、食味、玉の肥大も良好。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや下回るとなる見込み。
もも		5,418	113	6,155	531	96	485	1	0	山梨産中心の入荷で、全体の約8割を占める。山梨は着果量が多いことから小玉化の懸念もあったが、適度に雨もあり、7月に出回る「白鳳」含めてほぼ前年並みの肥大。出荷ステージの遅れから全体の入荷量は前年を上回る見込み。価格は前年をやや下回る見込み。
メロン類		4,359	105	4,557	373	102	363	1,263	29	茨城、千葉、山形産が中心となる。品種は青肉で千葉「タカミ」、山形「アンデス」、赤肉は山形「クインシー」、北海道「らいでんレッド」「夕張メロン」など。産地では好天が続いており、生育は順調で前進気味、であり、肥大も良い。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みとなる見込み。
おうとう		794	97	745	1,417	102	1,309	658	83	山形産が全体の約7割を占める。出荷期を迎え気温が高めに推移しているため、やや果肉先行。前年よりも早く6月半ばすぎから山形産「佐藤錦」がピークとなり、下旬には秋田県産も始まった。7月は1旬早く北海道の入荷も始まる見込み。シーズンを通した全体の入荷量は前年を上回るが、山形のピークが早めに来たため、7月は前年並みとなる見込み。価格は前年並みとなる見込み。
ぶどう (デラウエア)		907	88	894	730	111	771	456	50	山形、山梨産中心の入荷となる。山梨は雪害のハウス倒壊により大幅に入荷量が減少する見込みだが、露地はまったく問題ない。山形は6月下旬、山梨は7月から無加温が始まり、7月にピークとなる。各産地干ばつ気味で食味よい。全体的な入荷量は前年を下回る見込み。また中元需要のため価格は前年を大きく上回り、高値が予想される。